

(1) [I]

神戸居留から九州下北に - 古本屋 ^{三浦書局}
 (100335~38)
 (1902-1905)

1902(明治35) ~~東京~~ 東京物理学校に入ったとき、~~三浦~~ ^{三浦} 先生に
 旧書同窓生の上を、~~三浦~~ ^{三浦} 先生をよませた。三浦先生は
 何となく古本屋から、あつた、あつた、とこれか、分りません。
 もなかつた。下宿のさしお、お茶の水の「教育+物理」
 とかあるもので、(●いまの「聖堂」~~の~~ 部分)
 増刊の一部(●) ~~名~~ 名かけとか、蔵書といふも (外口流の
 本は●なく、日本の書物でも「新しい音楽」~~の~~ 本は
 殆んどなかつたので、二、三本だけ止めた。上の本の
 書物は ~~といふ~~ ^{といふ} 本は、~~あつた~~ ^{あつた} 上宿の
 短時間のさしお、よい結果をのこした、~~別~~ ^別 本見を
 判ったので、こゝを ~~止~~ ^止 した。

その日録やカードを渡して、日本流の本 ~~い~~ ^い は、(よす
 な、あまり多くない) ~~と~~ ^と 本当に定まらず、~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り
 思われた。●ので、~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り
 英語の原書 (●一西の流、ドイツ語の) ~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り
~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り ~~あ~~ ^あ り
 次々あつた書物
 は、それから数十年の間、どんなに古本屋に
 去ることはない。

1910年(明治43) ~~あ~~ ^あ り、他の書店からあつた
 新本 ~~あ~~ ^あ り、見えなくあつたが、
 田村書物は、あつた、あつた、あつた
 整理の拾 ~~あ~~ ^あ り、田村 ~~あ~~ ^あ り
 田村 ~~あ~~ ^あ り、あつた、あつた、あつた
 田村 ~~あ~~ ^あ り、あつた、あつた、あつた

1年半ほど後、尋常学校 ~~あ~~ ^あ り、物理 ~~あ~~ ^あ り、
 尋常学校の ~~あ~~ ^あ り、
 音響学 ~~あ~~ ^あ り、Lord
 1-1-9 Theory of Sound, 二巻の大冊が来た。
 をういむいと、あつた、あつた、あつた
 をゆめ、あつた、あつた、あつた

(2)

英米で有名な書
しかし、あまり特別の専門
一般的に書かない
を~~目~~ 隠してある。
9巻
4巻向の巻
~~1898~1901~~

田村書店の翻刻本 (1898~1901)

- クリスチ Crystal, Algebra, I, II. (この第一巻を足して、2巻は代々の室の庫) 代々の
- ホブソン Hobson, Plane trigonometry. 平面的三角
- サลมン Salmon, Conic sections. 円錐曲線
- トドハンター Todhunter, Differential calculus. 微分
- トドハンター Todhunter, Integral calculus. 積分
- ジョンソン Johnson, Differential equations. 微分方程式
- フォーサイス Forsyth, Differential equations. 微分方程式
- ネット Netto, Theory of substitution. (1-14)
- ハルナック Harnack, Differential and integral Calculus (1-15)

Smith, 大代巻 (大正10年) 私に著三巻の邦訳を頼成許に
1912 千本と12巻に
他の書店の翻刻本 2巻は日本に電報 邦訳書に
Burnside and Panton, Theory of equations, I, II. 対称式, ホルコクシ
の7巻

- シャウヴェネー Chauvenet, Elementary geometry. (パンスンとPn
カスロ
高台604 4巻に3巻
テクストと12
Pansone)
- パッセル Puckle, Conic sections. (円錐曲線 (平面の図形))
- アルディス Aldis, Solid geometry. (立体の図形)
- ウィリアムソン Williamson, Differential calculus. 微分
- ウィリアムソン Williamson, Integral calculus. 積分

高木 三子先生 1875 年 6 月 28 日 生誕 高木 三子 夫人 高木 武 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

高木 三子 夫人 29 歳 の 若い 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

1875 年 6 月 28 日 生誕 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

高木 三子 夫人 1875 年 6 月 28 日 生誕 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

無限小の量 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

$$f(x) = a_0 + a_1 x + a_2 x^2 + \dots$$

$$f(x) = a_1 + 2a_2 x + 3a_3 x^2 + \dots$$

高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

3 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人 高木 三子 夫人

Mellor. Higher mathematics for students of chemistry and physics.

II

それから一年半は、強い数学の力があった。ほんとの数学の研究をはじめとしたのは、(林虎一先生の手指導を受けながら) 1907年です。高木三子夫人著、田村書店、ホレコク、高木三子夫人著、田村書店、ホレコク、高木三子夫人著、田村書店、ホレコク

少年時代から 音楽の心を培った。フロントホフ、オストワルド、アルレイウス等の著者の著いた論文を、雑誌で見出したときの感動!

東大の化学雑誌に一年間は。化学同好会。これは(専門的な)化学雑誌ではない。高木三子夫人著、田村書店、ホレコク、高木三子夫人著、田村書店、ホレコク、高木三子夫人著、田村書店、ホレコク

1913 4 4 4 4 4 4
林鶴一 (著) 大正書局 (吉澤書房)

十全の協加たつた
2001
林鶴一著
監修
(本著の成立に著しい功を有す)
行刊式
である)

公算論、微積分学の基礎等
著法 程高任
中 執筆たす感あり

大日本図書 (数学書)
吉川 宣王
[吉川
宣王]

近世総合数学の発展
[吉川宣王は大正のはじめ]

小倉 数学教育先著書 (山崎堂) 大正14 ~ 1926
1925 1931

4

1907, 08, 09, 10,

仙台の(予)我
44 10月 邦文の「吉澤書」
のは少なかつたか? →
それ (吉澤宣王)
林鶴一先生の大正書局の「数学
書」のなかの「公算論」と「微積分
学の基礎」
大日本図書「吉澤書」

面白くない、「吉澤書」といふ
~~本~~が、2723からはいった。
その他より本

「近世総合数学の発展」である。
(吉川さんの「近世総合数学の発展」は大正の
序に、~~本~~が、2723からはいった。
風格を付与した、
本は、
本は、

18世紀の数学

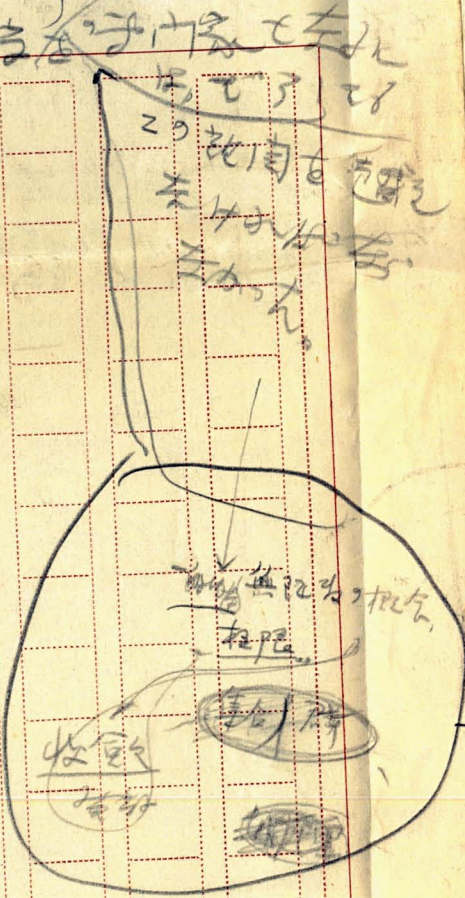
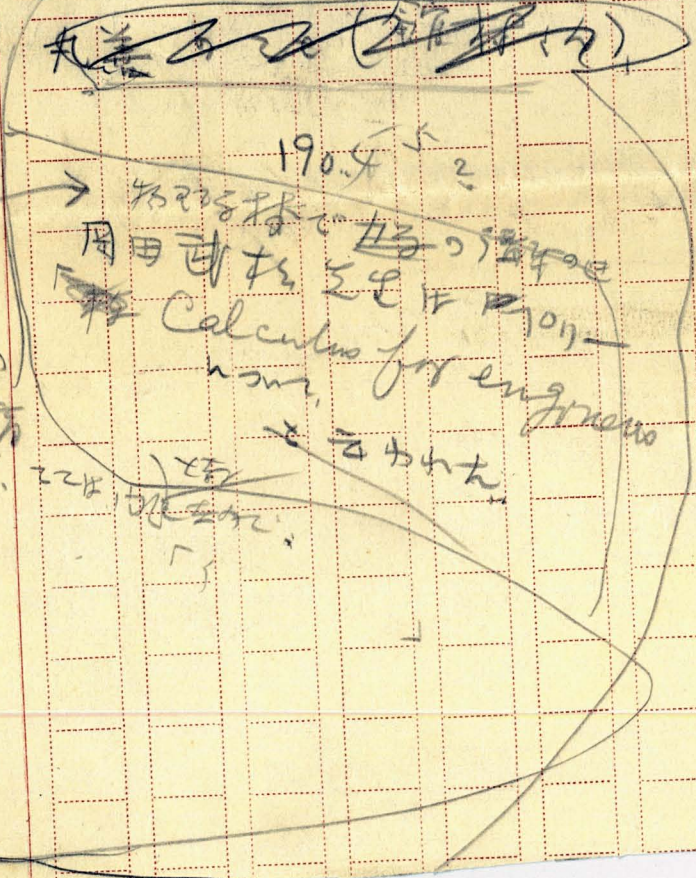
物記子校で ~~...~~ 数学の発展

(18世紀の)

物記子校の

数学の

現代の



物記子校で ~~...~~ 数学の発展、当時の
 高等数学や国立の高等学校の発展の
 組のなか、記述も内容も大層な
 のりなり、大い ~~...~~ フォルマ
 ため、微分の歩は ~~...~~ 代わり、
 ほん 微積分で ~~...~~、微分
 記述 ~~...~~ といはった。近世 ~~...~~
~~...~~、二巻の ~~...~~
 直線 ~~...~~ の ~~...~~、
 難解 ~~...~~、一方、算術 ~~...~~
 理論 ~~...~~、
 全く ~~...~~

~~身体めつはしに、~~

めんよんいんちん

があらま

~~めんちんちん~~

めんちんちん

④ ⑤ ⑥

ヤイリヤシ

その外に其獨り

つぎつぎと流れてきたので、
4年間に 全部または一 流の人をたまたまの

ディリクレ 数論の代り ^(はじめつて)
Dirichlet の 数論 (デテキトウ 数論 したもの)
~~Dickson~~ ~~代り~~ ~~数論~~ (数論 したもの)
Secret の 代り ^(ドイツ) ~~数論~~ (ドイツ) ~~数論~~
(Weber の 代り I, II) ^(II は) ~~数論~~ ~~したもの~~

解析学
Durege, 函数論 (英訳が丸善にあったので、
Harkness Morley の 解析函数論
Durege, 楕円函数論 (これはドイツ)
Frobenius, 函数論 (新著) ^(新著) ~~数論~~ ~~したもの~~
Hardy, 純粋数学 (これは1910年の新刊書を買って、
物記を後執筆の 簡易に紹介し、国技先生に感謝した)
大抵の事と見ても、早稲 ^(新著) ~~数論~~ ~~したもの~~
Bromwich, 数論 (前半が)

幾何学
Cremona, 射影幾何学 (英訳書で)
Salmon の 幾何学書は 本国で絶版のものが多かったので、
高次平面曲线と、立体幾何学の二つだけを、ドイツに
よんだが、難解の箇所が多かった。 ^(Fiedler)
Bianchi, (ドイツ) ^(Fiedler)
ピアンキ

番外として
以上のほか、クライエリーの著書 ^(Fiedler)
はいはい
新訳書のついでに読み、

Goursat, Cours d'analyse I
Picard, Traité d'analyse I
を 邦訳 した、 数論 した。

①

数学史の 20年
40年ほど

利権
エルズベツ、702934
→ 20年ほど
40年ほど
50年ほど

1312, 高次元の幾何学 I, II
1312, 幾何学のおよび微積分の応用
1312, 高次元の幾何学と見出し

1-1, 微分方程式論
1-1, 連続変形群論
1-1, 切線変形群論

→ エルズベツの編纂によって、
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど

左の執し、大きな影響を受けた
人たか (20年ほど 40年ほど) Klein-Dirac の魅力は、
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど

費用が少なかった、外国の執し、には心を向けず、
しかし三上重夫さん、時の Archiv der Mathematik und
Physik, Jahresbericht der Deuts. Math. Vereinigung
左の印刷によって、
大いに利権、ついでに読者のため

初代、Encyclopädie der mathematischen Wissenschaften

少しづつ出版中の
を買い、これを「学生と」
これら、東北大の、
執し、
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど

左の東北大の図書館の、
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど

第1巻
東北大の、
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど

東北大の、
→ 20年ほど 40年ほど 50年ほど

会計
官
吏
な
った。

(注)

数学科の人数の増加

論文の増加

雑誌の増加

学術研究会連が若年雑誌を出し
始めたのは1924年で、(当時
~~若年~~ 20才から30才)

大正13年以後、昭和23年までは
新しい研究若年雑誌も増え
た。

1927 (昭和2)
時子雑誌 (和文)
創刊

単行本

これほど一流の著者たちは、
一般の若年者の専門書を
かいた。これらは、
若年雑誌の代表として
大正13年以後、昭和23年
までは

園正吉	高等代数学 (1925)	1928
園	方程式論	1929
藤原松三郎	代数学 I, II	1928-9
高木貞吉	代数学講義 I	1930-昭和5
掛谷宗一	一般の群論	1930 (著)
正田	抽象代数学	1932 (著)
窪田忠吉	初等代数学	1939
藤原松三郎	代数学	1939

ここでいえる、つまり、
田村書店のホンコリで、
25歳から30歳くらい、
田村書店のホンコリで、
いよいよ上の水準まで
達した、
といえるようになる。

①

大正13年以後、昭和23年までは、
若年雑誌の増加の時期があった。
[第一次大戦後、] 若年雑誌の増加の時期があった。

若年雑誌の増加は、
若年雑誌の増加の時期があった。
若年雑誌の増加の時期があった。

若年雑誌の増加の時期があった。
若年雑誌の増加の時期があった。

若年雑誌の増加の時期があった。
若年雑誌の増加の時期があった。

藤森良茂君の「日土大学」
若年研究会
若年 (大正7年23)

②

第四回 清原唯現

有力な

その代

藤井良藏

「考」(大正7?)

日土大子 (清原)

「高野研究」
(昭和11)

岩井清原 著

当時は (1932)

最高水準
に達した

高野の
研究

一種の
考証(?)

報告書

共立社 清原

(共立英古印 監修)
国技文化

五種ある清原

自伝的なる清原 (昭和44)

高野なる清原 (昭和44)

続高野なる清原 (昭和44)

~~高野なる清原~~
~~高野なる清原~~

高野なる清原
AS (1932) Alan 34

か世に出た大なる今やの清原研究
一冊の原書 読むべき事にして
清原の蘊奥を掘り得ることに
これに言はん偉大なる功績あり

高野に 林博士の著る著書くさしか
なく 一歩の足跡をいかに清原にさか

この種の著作を大成に、清原の
足跡をいかに清原にさか

共立社、清原は

清原界は一変した

3

改正の 701-3312
改正の 701-3312
大正の 輸入
第一改正
(1914~18)

第五 方言教育の進歩

1917 (大正6) 新教育
このころ 方言教育の進歩
小島 俊之助

1919 (大正8) 日本中語学教育会成立
(方言部) 「方言研究」

1924 (大正13) 大正末期の方言研究
小島 俊之助

東京文芸大 (昭和4) 1929
慶応義塾大

「方言研究」 東京師範
「方言研究」 東京師範

方言研究

1929 日土大の方言研究 (昭和4)
(方言部)

方言研究 (昭和11)

方言研究

「方言」 (大正7?)

林 三才
同校

半官半民の
色紙
の
集

方言研究

(1)

291000000

社会的・思想的な ~~変化~~ 大きく ~~変化した~~

第一次大戦の激化 (1919「改造」の創刊(大正))

大正
主
題

1920-21 73224 あり、帰国派

1922 年 日 (1922)

同車大震災 (1923)

~~1926-28~~

昭和の初期

~~1929~~

291000 日本社会は大きく ~~変化した~~

大正(1922) 改造社の 招待で ~~1922~~

日本 ~~の~~ [1922] → 291000 (1931)

現代日本文庫全集 [1927] [1922]

改造社 (新編)

291000 思想界 第一次大戦後

大正 (1920)

来るべき時

1931.10.6 2252

の危機を目前

社会・思想の解放

大正は ~~1920~~ } は日本における ~~1920~~ 思想の発展期

来るべき時

(高野素十 (著) 1920)

1) ~~註(1)~~ チャールズ・スミスの代数

これは 1902年三省堂発行の翻刻書で、1913年(14巻)

第三臨時教員養成所において、小倉が代数の講義に使用したテキストなのです。小倉自身の書入れをどうぞ下さい。

2) ~~註(2)~~ クライン高等幾何学^{階梯}~~講義~~ (ライプニッツ、トイブナー書社、再版、1907年) の 110-21

1)

9